

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200125		
法人名	社会福祉法人 百合の会		
事業所名	グループホーム オニオンコート		
所在地	札幌市北区百合が原11丁目186 - 3		
自己評価作成日	平成22年9月25日	評価結果市町村受理日	平成22年11月10日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170200125&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接の協力機関・特養看護師と連携し、24時間体制で、医療・健康面で細やかな対応を行っている
 隣接している母体施設特養の設備(喫茶・機能訓練スペース)使用や実施している活動(移動売店・各地域幼稚園・小学校との交流など)に参加出来る。又、特養・デイサービスと連携し、クラブ活動や合同行事、合同バスレクにも一緒参加し、普段と違う雰囲気を感じて頂き、人々との出会いや交流が持てるようにしている
 個別誕生会の取り組みも継続しており、本人の希望に合わせた場所でいつもより長い時間ゆっくりと過ごす事ができ、入居者様も大変喜ばれていた
 毎月、認知症ケア会議を開き、認知症について学習し、普段のケアに活かせるよう努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム オニオンコート」は、百合が原公園などの自然環境と医療機関や商店などが整う生活環境に恵まれた地域に位置している。母体施設の特養施設と連携して各専門医の往診体制も充実し、協力医療機関が同一敷地内に位置するなど、医療面において利用者や家族に安心感を与えている。ホーム長や管理者は職員とともに利用者にゆったりと寄り添い、本人や家族が望む限りホームでの生活が継続できるように個別対応を心掛け、利用者一人ひとりが生き甲斐を持って生活できるように熱意を持って日々温かなケアを行っている。ユニット毎の利用者に合わせて手芸サークルや音楽療法などの余暇活動に力を入れ、共有空間の装飾なども利用者の作品を上品にさり気なく飾るなど、家庭的な温かさや生活感が感じられる。各マニュアルの整備や研修体制も充実しており、職員は向上心を持ってケアに取り組んでいる。家族の意見や外部評価の結果も真摯に受け止めて迅速に対応し、今年度からは家族に対する「顧客満足度アンケート」を行うなど、更なる運営の充実を目指しているグループホームである。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に付く所に理念を掲示し、日々の支援の中で意識を高めるようにしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえ、家庭的な環境と地域住民との交流のもと、住み慣れた環境での生活を継続できるように支援することを目指し5項目の理念を作成している。事務所などに掲示し、内部研修の課題にするなど、全職員で共有して実践に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に参加したり、地域の方に施設行事に参加して頂ける機会を設け交流している。	小学校の運動会や地域の神社のお祭りに出かけたり、母体施設が主催する盆踊りなどに地域住民を招待して交流が行われている。協力医療機関の院内保育所の子供達と交流したり、母体施設の喫茶店や日々の散歩などで地域住民と会話を交わしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取組んではいきたいが、具体的には行っていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度は開催し各立場の方々から意見を頂きサービス向上に活かすよう努めている。	地域住民や地域包括支援センター職員、予防センター職員、消防署員や家族が参加して2ヶ月毎に開催している。災害対策や外部評価の結果に対しても具体的な改善策を報告している。意見交換も活発に行われ、会議がサービスの向上に活かされている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	これから市町内会へアプローチしていきたい。	市役所や区役所に書類提出や事務手続きなどで訪問したり、管理者会議などで関わる機会がある。地域包括支援センターからは利用者の紹介を受けたり、クリスマス会にプレゼントを準備してもらうなど協力関係が築かれている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会、施設内研修の実施にて職員の意識強化に努めている。	「身体拘束等の排除マニュアル」を作成し、委員会を設けて定期的に事例検討会などを行っている。身体拘束が必要な時は家族に書面で説明し同意書と経過報告書を作成するが、現在対象者はいない。建物全体の玄関は夜間施錠しているが、ユニットのドアやエレベーターは夜間も自由に出入りが可能になっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて勉強・意見交換。委員会にて意識強化している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設け、成年後見人制度について学ぶ機会をもつようになっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望見学。利用者やご家族の不安・疑問点を解消して頂けるように、契約書・重要参考説明書を納得いくまで説明し、安心して頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ボックスの設置や、入居者・ご家族からの日々の要望、意見等は都度検討し、意見を反映するようにしている。	家族の来訪時や運営推進会議において家族からの率直な意見を収集し、速やかに解決に向けて取り組んでいる。今年度からは家族に対して「顧客満足度アンケート」を行い、家族の意見収集に更に力を注ぎ運営に反映させる予定である。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を実施し、意見交換の場を設けている。日々の業務に携わる中で得た情報に基づく改善策や提案ができるようにしている。	ホーム長は契約社員の更新時に個別面談を行うとともに、日々職員に声をかけてコミュニケーションを取り、思いを把握するように努めている。毎月行う認知症ケア会議や年間行事の話し合いの機会に職員の意見や提案を聞き、質の向上に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との定期的面談を行い、精神、肉体系のフォローができる体制を作っている。人事考課も取り入れており、自己の向上に繋がるよう配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に施設内研修があり、極力参加している。施設外研修にも参加し、レベルアップを目指した体制をとっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市と区のグループホーム連絡会に出来る限り参加し勉強会や意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	状態観察を随時行い、ご本人らしい生活を安心して過ごせるよう、こまめに声掛けし個別対応に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の疑問、質問、要望などを話しやすい関係作りに努め、ご家族の面会時等に心の思いを一つでも多く語って頂く様に心掛けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在ホームでできることを明確に説明している。また、他のサービス利用、情報も状況に合わせて紹介するようにしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活し、ご本人の自由を尊重しながら、家庭的な雰囲気を中心掛けている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の希望、日常の様子等、情報交換を密に行い、同じ思いを共有し支えていける関係を築くよう努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前の友人知人など来訪されている。又、家族付き添いで馴染みの店や場所に出向いている。	利用者の希望に応じて、家族の協力のもと馴染みの美容室やお店などに出かけて関係が途切れないように支援している。知人や親戚の訪問も多く、来訪時には落ち着いて過ごせるように配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で気の合うもの同士、会話やゲーム等を通じて仲間意識を深めている。交流が苦手な方も職員が仲介する事で共に生活する仲間として理解して頂ける様に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、支援を継続していくよう意識している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	客観的に捉えるのではなく、ご本人の立場で物事を捉え何を望んでいるか探りながら支援している。	利用開始時の家族などからの情報を活かしながら日々の様子を記録し、申し送りやミーティングで個々の思いや意向を把握して支援している。誕生日には、本人の意向を把握した企画を立てて個別支援を行っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族よりこれまでの状況・生活歴を伺い、入所後の生活に活用しながら生活の変化を最小限にし不安なく暮らせるよう配慮している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ゲームや散歩、会話の中から状態の把握に努め個々の好きな事を優先するようにしている。(個別対応も行っている。)		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を用い、ケアプランに沿って家族や医師などの協力のもと、スタッフが話し合いをし、意見を出し合って介護計画を作成している。	介護計画は、日々の記録や家族の意見などを参考に計画作成担当者が中心になり3ヶ月毎に見直しを行っている。新規利用者は、当初から大まかな本計画を作成し、変化がなければ3ヶ月後に見直しを行い、その後詳細な計画を作成している。	新規利用者の介護計画は、利用後の状態を早めに見直し、利用開始時の計画が更に深められるように期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌等から日常の変化、要望を把握し、本人のケアプランに役立てている。又、変化が見られたらケース会議やカンファレンスを行い、見直し検討している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの多機能性を活かしていきたい。同一敷地内の施設の活用、ショートステイ等のサービスの実施を視野に入れている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等に参加して頂けるように、会議の主旨を地域の方に理解していただき、連携をもてるように努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、本人や家族と相談し、同意の下で受診している。又、家族希望の専門医や急変時の病院指定も家族の希望に沿うようにしている。	現在も家族送迎により、数人がかかりつけ医を継続している。受診時には日頃の健康状態の情報を持参してもらい、適切な医療が受けられるように支援している。歯科や皮膚科、精神科なども母体施設と連携を取り、随時往診を行い充実した医療支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に協力病院内看護職員又は医師に、受診すべきか等迷った場合には相談でき、助言等受け支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係者、家族、病院との連絡を密にするよう心掛けている。又、早期退院の場合、リハビリ通院支援を実施している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族と話し合いをし、意に沿うよう協力をしている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成して、利用開始時に家族と本人に説明し同意を得ている。看取りについては、家族と本人の意志を尊重して最後の場に相応しい適切な場所を援助する事を説明している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内マニュアルや研修を行い、職員個々が対応できるようにしている。又、応急手当時の対応を年数回研修で受けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を定期的に行い、緊急時の対応を身につけている。	避難訓練は、消防署の協力のもとに昼夜の火災を想定して、母体施設と合同で年間2回実施している。隣接する母体施設や協力医療機関と連携を深めて、災害時の協力体制を築いている。飲料水や非常食の備品も整備されている。	地震時の避難についてはマニュアル作成にとどまっているので、今後はシュミレーションなどを行い、避難誘導の対応を職員間で再確認するように期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者の前でプライベート、プライバシーを損ねる内容の話題にならないよう声掛けている。	プライバシーを損ねない表現のマニュアルを作成し、名前を「さん」付けて呼び、礼儀を伴った言葉遣いに配慮している。記録などは他者に見えない場所で書き、個人情報に注意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別対応等にて、時間をかけ対応している。本人の要望、希望はなるべく取り入れ、自発的になれるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安心して安らかな日々を何ものにも束縛されることなく過ごしていただけるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回理美容訪問があり、本人、家族の希望に合わせて利用している。更衣の際に本人に服等を選んでいただき、本人の好みに沿うよう支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活の中で役割分担をし、ADL維持向上のため、ほぼ毎日共同作業に参加され楽しみながら一緒に行うようにしている。	母体施設の管理栄養士が月の給食委員会で利用者の嗜好を把握して献立を作成し、それをもとに職員はできたての温かい食事を提供している。ホームの畑で採れた野菜類を添えることもある。音楽を流し職員も同じ食事をしながら会話を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士よりカロリー計算された献立に沿って提供している。水分量は個人日誌に記録し、把握できるようになっている。栄養保持のため、必要な方にはエンジョイゼリーの提供を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に義歯洗浄・うがいを行い、夜間帯は消毒・保管させて頂いている。又、口腔内や義歯に異常がある方には歯科の往診を受けていただけるようにしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排尿、排便パターンの把握、入居者が発するシグナルを見極め自尊心を傷付けないよう配慮した支援を心掛けている。	プライバシーに配慮しながら、排泄の確認を利用者に応じた声かけで支援している。介護度が重くパット類を使用している場合も、できるだけトイレに誘導し自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量維持と把握、適度な運動の促しを行い、気持ちの良い排便ができるように努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望をご本人にお聞きし、声かけをしながらリラックスして入浴していただけるよう心がける。入浴時、更衣の際にプライバシーの保護に配慮している。	日曜日を除き、基本的には午後に入浴を実施しているが、状況によっては午前中や日曜日の入浴も可能である。希望を聞きながら週に3～4回入浴の利用者もおり、時間も希望に沿って支援している。必要に応じて、シャワー浴や足浴も対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に合わせて声かけをし、休んでいただいている。馴染みの寝具を使用していただいている方もいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人用服薬ノートで個別に管理し、状態観察を行っている。服薬は個々の身体能力に合わせ、錠剤を粉砕したり、トロミやゼリー飲料でスムーズに飲み込めるよう工夫をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別対応でレベルに応じた趣味活動やレクに参加して頂いている。又、家事のお手伝い等、出来る事をして頂き役割りに繋がるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の体調に合わせ、外気浴やショッピング等希望にそように努めている。冬時期は外出は難しいので母体施設での移動販売や喫茶コーナー等を利用し希望に沿うよう努めている。	天候を見て中庭や外の周囲を散歩し、車いす利用者も外気浴を兼ねて出かけている。買い物や個人の誕生日には希望に沿って支援し、家族の協力のもとに外出の機会は徐々に増えている。冬季にも受診や母体施設への渡り廊下の移動などで外気に触れる機会がある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングの際、職員と共に代金を本人に用意してもらって支払う方もあり、社会性が失われないよう配慮している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、希望される方はいないが、必要時(希望時)には対応していきたい。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を気持ちよく使って頂ける様に環境管理・衛生保持に努めている。又、季節に応じてリビング等に装飾を施す事で季節感のある空間づくりに配慮している。	病院を改造した共用空間は全体的に広く、トイレ、洗面所、浴室も清潔に整頓されている。居間の数箇所にソファを配置し寛げるように配慮されている。利用者と一緒に作った暦やちぎり絵、小物などの作品が飾ってある。季節の装飾なども品よく、家庭的で生活感があり、落ち着いた雰囲気になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数人で囲めるソファ・テーブルを設置、個々が好きな場所で座って過ごせるような椅子の配置になっており、状況の変化に応じて設置場所の変更ができるようになっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に慣れ親しんだ物を置いたり、使い慣れたものを使う事で、少しでも本人が落ち着いて過ごせるように配慮している。	居室内に収納スペースが取り付けられており、ソファに座ってゆったりと過ごせる十分な広さがある。テーブル、イス、鏡台など馴染みの家具類に、好みのぬいぐるみや装飾品、家族の写真を飾り、心地よい居室作りが施されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	様々な状態に合わせて生活ができるようになっており、(バリアフリー、手すり、居室内外の配置変え、トイレや入浴介助に対応した職員数、等)個人の動きを妨げず自立を促すよう努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200125		
法人名	社会福祉法人 百合の会		
事業所名	グループホーム オニオンコート		
所在地	札幌市北区百合が原11丁目186 - 3		
自己評価作成日	平成22年9月25日	評価結果市町村受理日	平成22年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>隣接の協力機関・特養看護師と連携し、24時間体制で、医療・健康面で細やかな対応を行っている</p> <p>隣接している母体施設特養の設備(喫茶・機能訓練スペース)使用や実施している活動(移動売店・各地域幼稚園・小学校との交流など)に参加出来る。又、特養・デイサービスと連携し、クラブ活動や合同行事、合同バスレクにも一緒に参加し、普段と違う雰囲気を感じて頂き、人々との出会いや交流が持てるようにしている</p> <p>個別誕生会の取り組みも継続しており、本人の希望に合わせた場所でいつもより長い時間ゆっくりと過ごす事ができ、入居者様も大変喜ばれていた</p> <p>毎月、認知症ケア会議を開き、認知症について学習し、普段のケアに活かせるよう努めている</p>

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170200125&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年10月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分らしく生きがいを持って安心して暮らせるよう、独自の理念を作り、職員の目のつく所にそれを掲げ、普段のケアに活かせるよう日々実現に向け取り組んでいる		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は、寿し職人や蕎麦打ちの方を呼び、実際に目の前で実演をして頂いて、色々お話を聞きながら会食をし、皆さん喜ばれていた。その他、様々な行事を通し、地域との繋がりを大切にしている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後の課題として努めたい。地域住民の方で、運営推進のメンバーになって頂ける方には、協力を得、事業所や認知症の事を理解して頂けるよう、地域の貢献の場としても活用していきたい		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開き、取り組み状況の報告、参加者から意見を頂き、できる所はすぐに取り入れ、改善させて頂いている		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	機会がある時以外は密に関わる事が少ない為、研修等で今後もアプローチしていきたい		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、身体拘束についての基準や具体的な行為等について職員が周知できるよう取り組んでいる。事例検討を通して各セクションで話し合い、委員会で発表する等、より詳しく身体拘束について考え、理解できるようにしている		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し、傷・あざ記録表をつけ、各セクションで発表し、虐待の疑いはないか等、議論し防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設け、成年後見制度について学ぶ機会を持つようにしている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を読みながら、不安・質問点には納得が図れるように説明し、連携体制(医療・趣味活動・行事等)も説明させて頂いている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カウンターに意見ボックスを設置し、相談・要望記録表を作り、利用者やご家族がいつでも意見等話しができるよう日々のコミュニケーションを大切にしている		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を実施し、意見交換やケアの統一性を見直している		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績等を考慮しそれに応じた給与水準・職場環境・条件の整備を行い、やりがいや向上心を持って働けるように努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修の実施、チャレンジシートを使用し、自己課題に取り組む等、働きながらトレーニングができるようにしている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム連絡会での研修会の他、今後は交換研修等も行っていきたい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>日頃よりコミュニケーションを多くとるよう心掛けています</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の面会の際にはこちらからの近況報告をしながら、コミュニケーションを図り、話しやすい環境作りに努めています</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>現在のホームでの出来る事を明確に説明するよう努め、ニーズに合わせて関連する支援センター等、状況に合わせて紹介するようにしている</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日頃から調理方法等、昔からの知恵をお借りし、一緒に会話をしながら作業する等、共に支えあいながら生活している</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>日常生活の様子や本人の希望等、来所時に細めに情報交換を行っている</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>お墓参りや本人希望の美容室へ行く等、ご家族の協力を得、馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日々の関わりの中で職員間で情報交換を行い、仲介に入る等、臨機応変に対応する事で、トラブル防止に努めている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援を継続していくよう心掛けている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の好きな趣味活動や音楽等、出来るだけ個々の思いに添った対応をしている。より、本人の希望に添えるよう、個別誕生会にも力を入れている		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談員と情報交換を行い、これまでのサービスの利用状況やご家族にも協力を得、センター方式のシートを活用し、本人の生活歴等を記入して頂く等、これまでの暮らしの把握に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員担当制とし、一人ひとりの状況の把握に努めている。又、職員間で情報を共有し、対応している		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス・ケース会議により個別性を重視したケアプランの作成に努めている。センター方式の一部のシートを活用し、より本人の思いに近づけるよう対応している		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日々の様子等個別日誌に記録し、月末にはプランに添った支援が出来ていたか評価している。又、必要があれば、ケース会議やカンファレンスで検討し、プランの見直しを行っている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一敷地内の特養やデイサービス、病院の活用等、多機能性を活かしている		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	誕生会の余興でボランティアの方に来て頂いたり、避難訓練で消防の方に協力を頂く等、協働しながら支援を行っている		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、かかりつけ医に日常の様子やバイタル等の情報を提供している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録を活用しながら、定期的に特養の看護師に入居者の様子を報告し、適切な指示を頂いている。百合の会病院の看護師とも定期受診や特変時等、いつでも相談・指示が頂けるようになっている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	百合の会病院と連携を図り、医師や看護師へ相談・報告を行い、入居者が安心して過ごせるよう入院や退院の対応を迅速に行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には事前に重度化になった場合の対応について説明をし、医療機関へ早急に連絡を行い、連携を図っている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の作成、委員会やマニュアルを活用し、習読している		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者の立場に立った声掛けを心掛けている。個人日誌等、プライバシーに関わる物は、入居者の目につかない場所に保管している		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図りながら馴染みの関係を築き、本人が思いを表したり、決定しやすいよう個々の思いを尊重したケアを心掛けている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、自由に穏やかな生活が送れるよう心掛けている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容室が月4回あり、多数利用されている。気分転換の為、時折お化粧品やマニキュア等をして頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には皮むきや盛り付け等の食事準備や食器拭き等の後片付けを手伝って頂いている。食事中は落ち着いた音楽をかけたり、職員も一緒に食事を摂る等、楽しく食事をして頂けるよう心掛けている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立・個々の食事形態や好みに合わせ、バランスのとれた食事を提供し、水分量も一日1000cc以上は必ず確保できるよう努めている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	舌ブラシや口腔ケア用ウェットティッシュ等必要な物を用意し、個々の状態に合わせて毎食後実施している		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いながら、個々の排泄パターンを把握し、定時の誘導・声掛けを行っている		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動、腹部マッサージ、朝食後のトイレ誘導を心掛けている。又、個々の状態に合わせて下剤を調整し、看護師の指示を受けながら対応している		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に配慮しながら、曜日や時間等、できるだけ本人の希望に合わせて、入浴して頂いている。又、入浴の際は、職員とゆっくり談話や歌を楽しむ等、楽しく入浴して頂けるよう心掛けている		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせて、ベッドではなく布団で対応したり、状況に合わせて眠れない時はソファで休んで頂いたり、職員と一緒に付き添う等、安心して眠れるよう支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容については処方箋・受診ノートを活用し把握に努めている。又、服薬に変化があった場合は、受診メモに記入し、職員全員が把握し、状態観察を行っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しく活気のある生活を送って頂けるよう、食事準備や後片付け、掃除等の日課活動やクラブ活動等、個々の好みや趣味に合わせた支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段から外気浴を兼ね、中庭の花壇まで散歩に出掛けたり、隣にある百合が原公園やショッピングへ外出する等、戸外へ出掛ける機会を作っている		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持している方は少ないが、ご家族の協力のもと、3人の方がお金を所持しており、そこから買物や支払いを行っている。その他の方にも、移動売店やショッピングの時等、ご本人に会計をして頂いている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話の活用や絵手紙を送る等、いつでもやりとりができるよう、支援していきたい		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう、生花や造花、絵等を飾り、季節ごとのインテリアを工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けや2、3人掛けのソファを配置し、入居者が思い思いに過ごせるようにしている		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子、のれん等個々の馴染みの家具を使用している		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のわかる事、わからない事について観察しながら、本人の立場に立って対応するよう努めている		

目標達成計画

事業所名 グループホーム オニオンコート

作成日：平成 22年 11月 8日

市町村届出日：平成 22年 11月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	入所時のケアプランの期間が2～3ヶ月と長い	期間は1ヶ月をめどに見直しを行っていく	モニタリングも行い、初期のケアプランを作成していく	3ヶ月以内
2	35	消防訓練は行っているが、地震を想定した訓練は行っていない	職員の意識を高めるよう定期的を実施していく	色々な場面を想定しシミュレーションを行っていく	6ヶ月以内
3	49	今年は暑さが厳しく、外出の行事が少なかった	屋内でも楽しめる生活リハビリ等のレクリエーションを工夫していく	母体施設特養の設備を有効に活用し、活動範囲を広げ、身体を動かす機会を多く作っていく	3ヶ月以内
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。